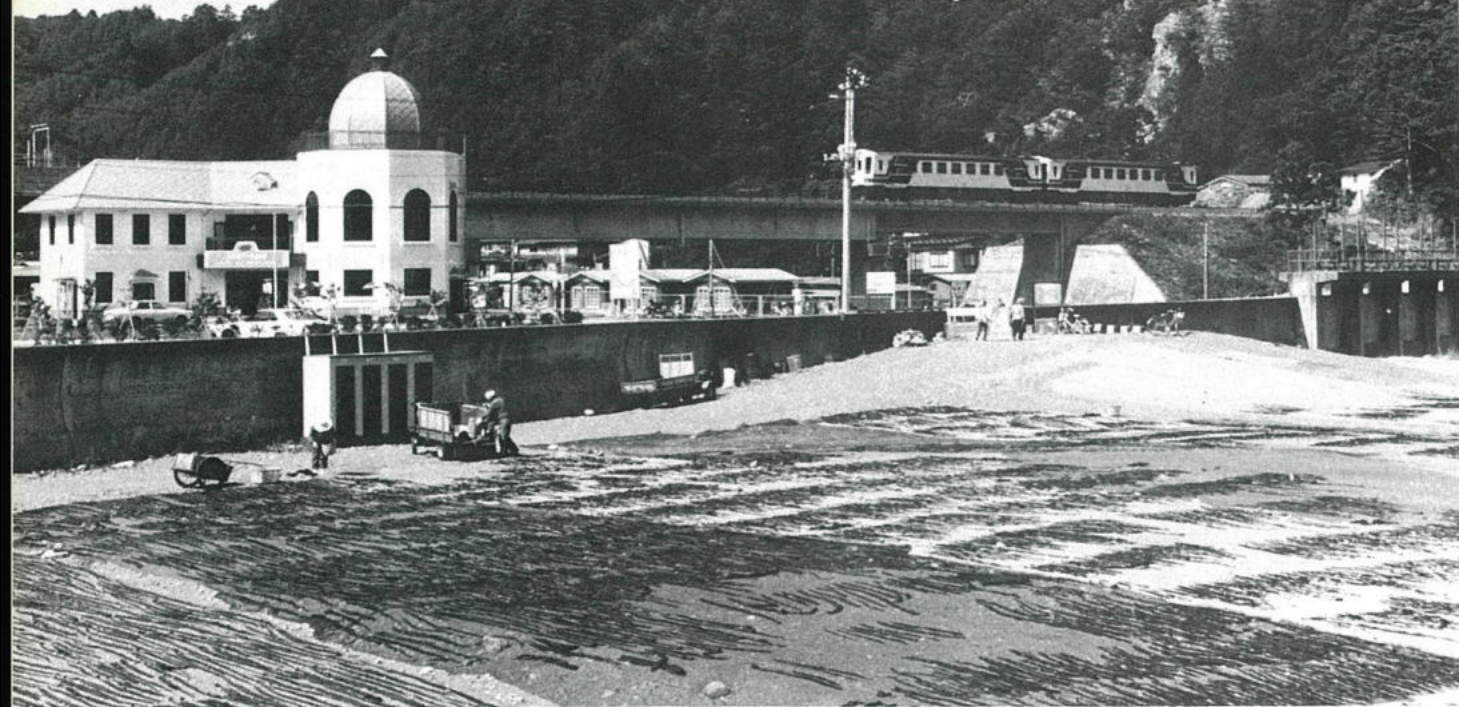


大いなる飛躍をめざし 振り返る県勢の一年



数々の出来事や思い出を重ねて今年も残すところわずかで幕を閉じます。

新日鉄釜石ラグビーのV6達成でスタートした59年は、甲子園での大船渡高校や国体で県勢が大活躍するなど県内のスポーツ界は明るい話題でいっぱいでした。

待ち望んでいた三陸鉄道も開業し、県内

の水稻は5年ぶりの大豊作。皇太子ご夫妻をお迎えして開かれた第8回全国育樹祭も大成功に終わりました。

21世紀への飛躍をめざした新岩手県総合発展計画も策定された一年を振り返り、新しい年が私たちにとって、また本県にとっても素晴らしい年となることを願います。

1月 穏やかな天気恵まれてスタートした昭和59年。新里村の乳児死亡ゼロの連続記録が12年に伸びたという明るいニュースで今年も始まりました。

滝沢村に建設されている総合催

事施設の名称が岩手産業文化センターと決まったのは9日。10日から31日までは、第2回いわて少年の船、第4回県青年の船、第3回岩手の婦人の船でそれぞれ洋上研修が行われました。

新日鉄釜石ラグビー6連覇の金字塔

成人の日の15日には、新日鉄釜石ラグビーチームが大学ラグビーの覇者同志社を35対10で突き放し6年連続7度目のラグビー日本一を達成し、前人未踏の記録をさらに伸ばしました。

県総合計画審議会が、59年度を初年度とする新しい県の総合発展計画の中間答申をまとめ、知事に

提出したのは30日です。

2月 第56回選抜高校野球大会の北海道・東北地区代表に大船渡高校が選ばれたのが1日。気仙地区からの甲子園出場は春、夏を通じて初めてのことでした。

59年度当初の県予算は、4,471億7,484万円余で、昨年の実質的な当初予算といえる6月現計予算に比

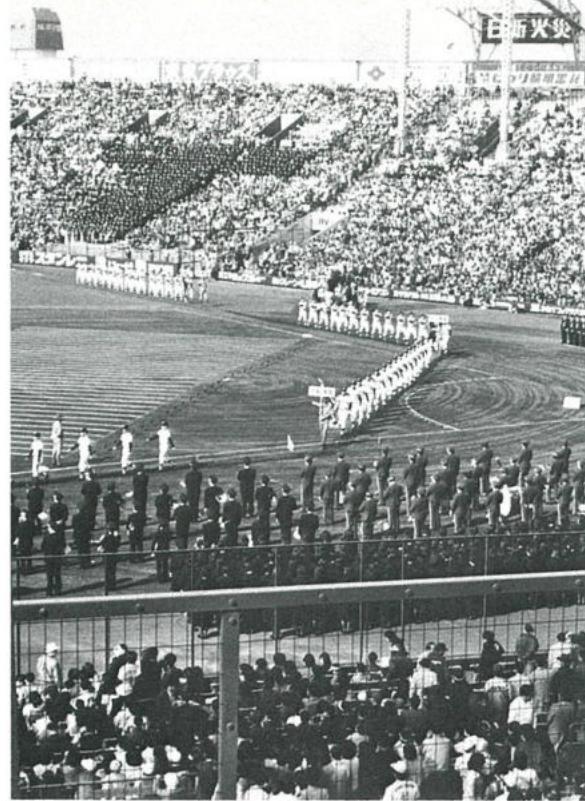
べて伸び率ゼロのきわめて苦しい台所となりました。しかし、内陸部と沿岸部を結ぶ6ルート8路線の県単高速交通関連道路整備事業の第二次計画として県北ルートと盛岡一岩泉町小本ルートを加えるなど、高速新時代の波及効果を県内全域に広める施策が盛り込まれました。

県の行政改革を進めるために、定数削減や県単補助金の整理合理化などの具体化方策をまとめた行政改革大綱を発表したのは13日のことでした。

3月 ウニやアワビの漁獲に潜水漁法を導入している種市町宿戸の宿戸漁業研究会が、第30回漁村青壮年婦人活動実績発表会で晴れの農林水産大臣賞を獲得したのが1

6日 4月に開業した三陸鉄道とカルボナード島越駅舎

7日 ベスト4入りの大健闘をした甲子園初出場の大船渡高校の入場行進(4月)



日です。62年春の開院を目指して移転新築される県立中央病院の起工式は24日に行われました。

三陸鉄道の運輸開始が認可されたのは26日で、4月1日の開業を待つばかりとなりました。東北自動車道八戸線の最終工区となる安代一戸間が着工したのは27日。

期待を乗せ三陸鉄道が華やかに開業

4月 1日、80数年の悲願だった三陸鉄道が全国初の第三セクター経営で開業し、三陸沿岸が一本の鉄路で結ばれました。沿線市町村をはじめ、県外からも訪れた鉄道ファンと一緒に開通を祝うなか、雄大なリアスの自然景観を縫って三陸鉄道の新車両が走りました。

甲子園で行われた選抜高校野球大会で快進撃を続けていた大船渡高校は、3日の準決勝で惜しくも敗れベスト4にとどまりました。しかし、北国のハンディを吹き飛ばした大船渡高校の活躍は、多く

60年4月に開業する大規模年金保養基地グリーンピア田老の設立発起人会が29日に開かれました。

31日には開業まで秒読み段階に入った三陸鉄道の南、北リアス線の駅舎に「祝 三陸鉄道開業」のアーチが立ち、発車ベルが押されるばかりとなりました。

の県民に夢を与えてくれました。

パートタイマー専門の職業紹介所として県内で初めて盛岡パート雇用センターが10日に開所しました。仕事を求める家庭婦人が連日詰めかけてにぎわいました。

19日から20日にかけて低気圧の通過に伴う雪やみぞれ、雨が降る大荒れの天気となり、河川、道路、農業施設などに総額64億7,400万円を超える被害をもたらしました。

5月 漁業資源を守り、密漁に目を光らす新しい県の漁業取締船第三はやちねが完成したのは2日。

昭和59年 (1984) 県勢ビッグテン

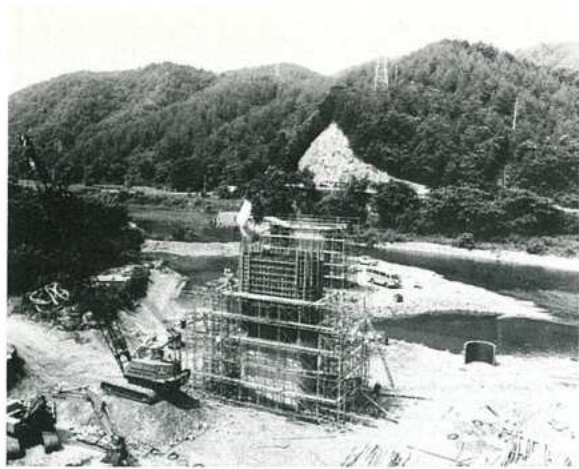
- 1 全国初の第三セクター「三陸鉄道」が開業。県内外の関心を集め南・北リアス線を快走
- 2 “緑に力を 未来に夢を”をテーマに皇太子ご夫妻を迎え第8回全国育樹祭開催。森林愛護少年団、林業後継者を中心に県民総参加で大成功
- 3 大船渡高校が選抜高校野球でベスト4入り、新日鉄釜石ラグビー6年連続日本一、国体ではヨット少年女子優勝など天皇杯15位に躍進、スポーツ界で県勢大活躍
- 4 水稲5年ぶりの大豊作で実り豊かな出来秋。第2次新しいわて農業確立計画を策定し、むらぐるみ農業の推進をさらに強化
- 5 新岩手県総合発展計画策定、行政改革大綱による県版行革も本格化し、21世紀へ向け県勢推進の新たな基礎づくり進む
- 6 県単高速関連道路8ルート12路線の整備済み、大泊、大野、遠野バイパス相次ぎ開通、久慈大型港湾開港など陸海の交通網が一段と充実
- 7 東北新幹線上野乗り入れ来春に決定、「新花巻」・「水沢江刺」両新駅も同時開業
- 8 サケ豊漁続き3万トン生産計画60年度を待たずにほぼ達成。サクラマス増殖事業にも着手し、サケ・マス資源増大を積極的に推進
- 9 県立中央病院移転新築に着手、県民生活センター、社会福祉研修所も完成し、福祉医療行政の充実が高まる期待
- 10 ニューメディア・コミュニティー構想モデル地区に矢巾、都南、盛岡地区が指定されるなど高度情報通信システムへの関心集まる

福祉活動に携わる人の研修の場として設けられた県立社会福祉研修所が盛岡市高松三丁目に完成し、12日に開所式が行われました。サラ金問題で県の公開聴聞会が初めて開かれたのは15日で、26日にはサラ金業者に初の業務停止処分という行政処分を下しました。

12年の歳月と約35億円の巨費をかけて普代村宇留部に建設されていた普代水門が18日に完成。県内一の規模で最新鋭設備を誇り、津波対策が充実しました。

江刺中核工業団地に進出する東京エレクトロン株式会社の立地協定書の調印式が行われたのは31日のことです。

6月 '84大阪・メカトロニクスフェアに、本県から初めて県工場適地フェアが参加し、本県への工場立地を訴えたのが7日から5日間です。県立高校女子生徒グループによる売春事件が明るみに出たのがこのころで、県民に驚きとショックを与えました。



18日、台湾観光旅行参加者の県人一人が真性コレラで隔離され、コレラ防疫対策本部を設置して防疫活動を展開、二次感染の防止に努めました。

国鉄が赤字ローカル線の第二次廃止対象路線として選定した岩泉線について、運輸省は22日に承認を保留しました。

7月 海洋科学技術センターの潜水調査船しんかい2000による初の釜石沖潜航調査が行われたのは10日からです。18日には、本県の高橋清孝県議会議長が全国都道府県議会議長会会長に選ばれました。

15日現在の県内の水稻生育状況が県平均で「やや良」と発表され、

全県的にほぼ順調な生育ぶりを見せました。早池峰国定公園内の大迫町河原坊地区に総合休憩所が完成。早池峰山荘河原坊という名称で、登山者の休憩のほか、緊急連絡用として無線装置も備えられ、監視員も常駐して、自然保護活動のとりでとして期待されています。

60年夏の開局を目指すエフエム岩手に郵政省から予備免許が交付されたのが27日。29日には、本県出身の6選手が参加したロサンゼルスオリンピックが開幕しました。

着工以来12年の歳月と約180億円の巨費を投じて建設されていた久慈港1万5,000トンの岸壁が完成し、30日に開港式が行われました。

21世紀への飛躍をめざす新計画策定

8月 秋田県で開かれた全国高校総合体育大会の陸上競技で、釜石南高校の菊池勝彦選手が100メートルで初優勝、走り幅跳びと200メートルでも2位と大活躍をしました。ロサンゼ

ルスオリンピックでは女子マラソンの佐々木七恵選手が19位と健闘しました。

21世紀への飛躍をめざした新しい総合計画の基本的な方向をまと

めた同計画審議会から最終答申されたのは6日のことです。

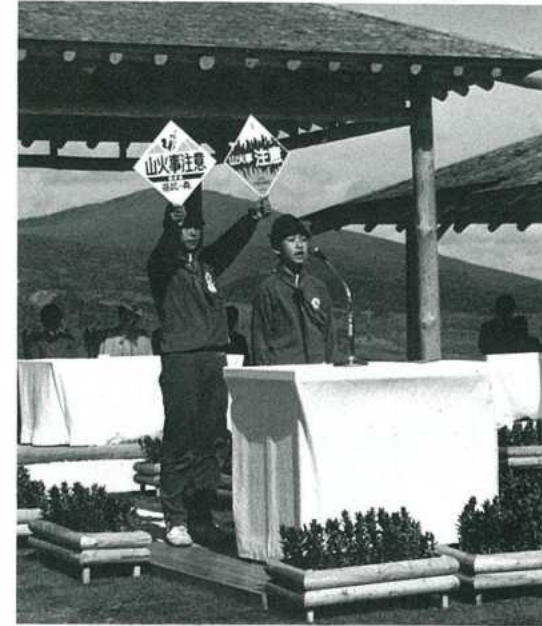
訪問販売や消費者問題など、県民生活の向上を図るために建設されていた県立県民生活センターが開所したのが10日です。

県内では、7月下旬から猛暑が続き、12日には盛岡の連続真夏日が18日間となり、史上第3位を記録。県内の水稻は早くも穂が出そろい、15日現在で作況指数は103の「やや良」と発表されました。

9月 来年、本県で開催される全日本ホルスタイン共進会の会場となる岩手産業文化センターの上棟式が8日に行われました。北上工業団地に岩手東芝エレクトロニクス株式会社の本社工場が完成したのは11日です。この日、奈良県で行われた国体の夏季大会ヨットの少年女子フライングジュニア級で宮古高校の佐々木・上田組が初優勝するなど大健闘し、ヨットの皇后杯を獲得しました。

東北新幹線水沢、花巻両新駅の

- 8月左上 高速関連道整備で行われる県道盛岡一岩泉線の岩泉町赤鹿地内の橋りょう工事(7月)
- 8月左下 消費生活の向上を願って完成した県民生活センターの展示・図書閲覧室(8月)
- 8月右上 5年ぶりの豊作を迎えた水稻(10月)
- 8月右下 県総合計画審議会から新計画の最終答申(8月)
- 9月下 全国育樹祭で緑の少年団活動発表をする岩手町・子抱山自然愛護少年団代表(10月)
- 9月右上 来春開業に向け急ピッチで行われる新花巻駅舎工事(9月)
- 9月右下 1万5,000トンの岸壁が完成した久慈港(7月)



駅名が、水沢江刺と新花巻に決定したのは13日です。17日には59年度を初年度に65年度を目標とする新岩手県総合発展計画が策定され

ました。15日現在の県内水稻の作況指数が106に上昇し「良」と発表され、53年に次ぐ史上2番目の豊作が見込まれました。

緑の郷土づくり誓う全国育樹祭開催

10月 文化やスポーツなどの分野で活躍し、県民に希望と意欲を与えた人たちに贈る県民栄誉賞が2日に創設されました。

14年ぶりに皇太子ご夫妻が来県されたのは13日です。15日には、皇太子ご夫妻が出席されて松尾村の県民の森で第8回全国育樹祭が開催されました。式典には過去最高の9,000人が参加して「緑に力を 未来に夢を」をテーマに緑豊かな郷土づくりを誓いました。

通産省のニューメディア・コミュニティ(高度情報都市)構想モデル地域に矢巾、都南、盛岡地区が指定されたのが15日です。

奈良県内を会場に12日から開かれていた国体では天皇杯順位が昨

年の25位から15位、皇后杯順位が28位から18位に大きく躍進しました。自転車競技の少年3万円ポイントレースで紫波高校の昆政広選手、少年ロードレースでも同校の佐々木一昭選手が優勝。重量挙げの成年110キログラム以上級では、福崎君夫選手が優勝し国体5連覇を達成し、ボクシング成年でも4連覇を飾るなど県勢が大活躍をしました。

長さが315メートル、高さ120メートルで、沢渡り橋では全国3番目の高さを誇る思惟大橋が田野畑村の国道45号に完成したのは19日。北上川流域を対象としたテクノポリス(技術集積都市)構想の第1回の委員会が開かれたのは26日です。

むらぐるみ農業の展開をはじ

め、生産性の高い作目の再編を進める第2次新しいわて農業確立計画が策定されたのが29日です。この時期、今月15日現在の県内水稻の作況指数も109の「良」と発表され、5年ぶりの豊作が確実となりました。**11月** 1日に新しい紙幣が発行され、本県ゆかりの新渡戸稲造の人物像が入った新5千円札に人気が集まりました。

県単高速交通関連道路整備で10日に国道396号の大迫バイパス、14日には国道395号の大野バイパス、27日も国道283号で遠野バイパスが相次いで完成し、時間距離の短縮が図られました。

企業誘致の受け皿ともいえる第二北上中部工業用水道の急速ろ過施設が30日に完成しました。

12月 学力の向上や国際的な人材の育成など県教育行政の指針となる新しい教育振興基本計画と、地震に伴う災害の予防や応急、復旧対策などを盛り込んだ県地域防災計画震災対策編が策定されます。